

平成 31 年 1 月 25 日

福井市総務部総合政策課

「ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョン」(案)に関する 福井市パブリック・コメント募集の結果

【概要】

人口減少・少子高齢化社会にあっても、地域を活性化し経済を持続可能なものとし、地域住民が安心して快適な暮らしを営んでいけるようにするため、地域において、相当の規模と中核性を備える圏域の中心都市が近隣の市町村と連携し、一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成することが必要との考えに基づき、平成 26 年度より国において「連携中枢都市圏構想」が進められているところです。

そこで、福井市を圏域の中心市として地域の一体的かつ持続的な発展を図るため、福井市、大野市、勝山市、鯖江市、あわら市、越前市、坂井市の 7 市と、永平寺町、池田町、南越前町、越前町の 4 町で構成する連携中枢都市圏の形成に取り組むこととしました。

この度、圏域全体の持続的な発展を見据え、7 市 4 町の多様な資源、産業、人材の活用や、人口定住のために必要な高次の都市機能の集積に向けた環境整備、また住民の生活関連機能サービスの維持・向上を目指す有機的な連携等について方向性を示し、今後の具体的な取組を推進するため、計画期間を平成 31 年度から 5 年とする「ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョン」(案)を策定しました。

このビジョンの案について、市民の皆さまからご意見を募集しましたので、結果を公表いたします。

【意見募集結果】

実施時期	平成 30 年 11 月 26 日から 12 月 21 日まで	
意見提出状況	提出者	2 人
	意見数	13 件
意見提出方法	書面の持参	0 人
	郵便	0 人
	ファクシミリ	0 人
	電子メール	2 人
	その他	0 人

ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョン(案)に対する意見とそれに対する圏域の考え方

対応分類	件数
A: ビジョンに反映する	0件
B: 今後の参考とする	11件
C: 圏域の考え方を説明する	2件
D: その他要望・意見等	0件
計	13件

1. ビジョン全体に対する意見

	提出された意見	対応分類	意見に対する圏域の考え方
1	現在でも事務量が多く、職員の残業時間も多いのではないかと危惧される中、また、財政難の折、職員数も減少していく中、果たして増える事務量に対応できるのかという不安を覚える。しっかりと精査し、少しでも不要な従来の取り組みは廃止し、事務量が増えないように努め、どうしても増えるなら適切な職員数を確保されたうえで、着実に機能し、成果を生み出す組織体制にしてほしい。	B	ビジョン(案)に掲載しております取組は、すべてが新規のものではなく、既存事業を拡充したものや、また、スケールメリットを活かしたり様式を統一化したり共同で広報したりすることにより、事務の効率化を図る、といった取組も含まれております。一方で、いただいたご意見につきましては、課題として認識しており、当該意見に配慮しながら取組を推進していきます。
2	国連が制定したSDGs(持続可能な発展目標:大きく17の柱から成る)に沿った社会経済改革に取り組みながら、一人ひとりが幸せを実感できるふくい連携都市圏の実現を目指すということが求められる。ビジョンの中にも、「持続的な」という表現が何か所か記載されている。はっきりと「SDGsを踏まえての持続的な」という記載をしてほしい。	C	SDGsに掲げる目標は、圏域の持続的な発展において重要であると考えております。当該目標を考慮しながら、持続可能な社会の実現に向けて、取組を推進していきますが、ビジョンへの記載までは考えておりません。
3	定住人口・交流人口を増やすためにも、個性の感じられる各市町のアイデンティティの確立と明示をしてほしい。地方創生に向けた自治体間の競争が激化する中、それに打ち勝つためには、個性の感じられる市町をそれぞれが目指すべきである。地元経済を活性化するためには、大都市のような機能強化を目指すのではなく、可能な限り地産地消や地場産業を大切にする自主自立型の個性的なローカル経済の確立を目指す方向に舵を切ってほしい。地元の文化、伝統を生かし、地場産業や伝統産業などを活かし、個性あふれる世界でオンリーワンの中枢都市圏を目指してほしい。	B	いただいたご意見を参考にして、各市町の個性と魅力を磨き高め、それぞれの地域資源に新たな「つながり」を生み出すことによって、本圏域としての独自性を発揮していきます。

2. 都市圏の将来像に対する意見

	提出された意見	対応分類	意見に対する圏域の考え方
1	「持続可能な発展を創造する ~ 真の幸せが実感できる ふくい嶺北都市圏 ~」などというコンセプトはどうか。福井県はこのところ幸福No1の県とが言われているが、市民一人ひとりが本当にそれを実感できているかははなはだ疑問である。実感できるためには、心の豊かさも含めて真に幸せが実感できる社会経済を構築することが、これからまさに求められるのではないかと。	C	「住民一人ひとりが真の幸せを実感」できるようにすることは、重要であると考えております。心の豊かさも含めて真に幸せが実感できる社会経済を構築していけるよう、取組を推進していきますが、コンセプトの変更までは考えておりません。

3. 具体的取組に対する意見

	提出された意見	対応分類	意見に対する圏域の考え方
1	インバウンドの増加による観光振興についてであるが、SNSをフルに活用した、生きたリアルタイムの個性のある人間味が感じられる情報提供が最も効果がある。それと併せて、やはり宿泊施設の整備である。外国人に喜ばれる施設、日本的なおもてなしや日本的な体験もできる宿泊施設、オーナーとも心から触れ合えるゲストハウスなども好まれる。そうした施設を市町が連携し、空き家や空き校舎などを活用して整備すべきである。話題性のある宿泊施設、旅行コース、日本の田舎生活体験などをもっと掘り起こして、整備してほしい。	B	いただいたご意見を参考にして、SNSを活用した情報発信や、既存のゲストハウスや農家民泊といった特色ある宿泊施設や体験型観光素材の更なるPRなど、圏域全体への誘客拡大に連携して取り組みます。

	提出された意見	対応分類	意見に対する圏域の考え方
2	地域の新しい観光名所をつくる取組をすることによりリピーターの観光客を増やすことができる。 まさにその取組が、地域の活性化や地域おこしにつながる。 広域観光周遊ルートとして私が考えるのは、きれいな越前海岸と東尋坊をセットとして越前町、南越前町をめぐるお手軽日帰りルートと宿泊ルートである。 越前海岸をあちこち途中下車し、水仙畑や呼鳥門、越前岬灯台を散策しながら洒落たカフェで休憩。今度は地域を走るコミュニティバスを利用して移動、福井駅に路線バスを利用して戻ることが出来る周遊ルートをつくといい。 また、リピーター向けとして越前海岸の旅館に宿泊して、コミュニティバスを乗り継ぎながら海岸の名所を散策するのもいい。	B	「広域観光周遊ルート形成」において、越前海岸と東尋坊を組み合わせたコースを設定することは可能であると考えておりますので、いただいたご意見を参考にして、連携事業として検討していきます。
3	外国人観光客受け入れ環境整備として、越前海岸の福井市と南越前町に廃墟となって点在するホテルをリフォームして安く長期滞在してもらえるシステムを構築してほしい。	B	いただいたご意見につきましては、今後の参考とします。
4	福井駅前開発についてであるが、機能的に地下でつなげることにより駅前の利便性が上がり市民がよく集まる魅力的な活気ある福井県玄関口の福井駅前になる。 地下道を有機的につなぐことで、悪天候の時でも駅前地下駐車場に車を停めてショッピングをしたり、悪天候時駅から路線バスや福武線に乗り換えるのも快適にできるようになる。	B	いただいたご意見につきましては、今後の参考とします。
5	広域的公共交通網の整備と効率的なモビリティの実現については、ビジョンにも書かれているが、大変重要である。道路網の整備とともに、効率よく、だれもが利用できる広域公共交通網の整備、そして新たな交通手段による住民のモビリティの確保(カーシェアリング、相乗りタクシー、自動運転タクシーなど)、それをSDGsの視点から考えることが大切である。高齢社会がさらに進む中、また、インバウンドを含めて、観光客の入込数の増加を図るためにも、広域的な公共交通網は、今後整備される北陸新幹線、中部縦貫自動車道とともに戦略的な整備が必要である。	B	いただいたご意見を参考にして、高齢者の移動手段の確保、圏域内外から通勤・通学・観光等で訪れる人々の利便性向上など、広域的公共交通網の構築に連携して取り組みます。
6	今後、さらに高齢化が進み自動車を運転できなくなる方々の自立を促すために各地域のコミュニティバス路線の有機的なつながりが必要である。 関東から来る観光客をとりこみ、流入人口をうまく各観光地に送り出す主要路線をつくり、その枝として地域のコミュニティバス路線とつなぐことにより、郊外に住んでいる方々も地域の足として利用できる。	B	コミュニティバスの市町間相互乗り入れに向けて、各市町のコミュニティバスの実態調査・研究を行う予定をしております。 いただいたご意見を参考にして、二次交通の機能強化に連携して取り組みます。
7	コンパクトなコミュニティバスの便数を増やし、乗車運賃を安くすることができれば、地域の足として高齢者の方も利用でき、福井の街中まで気軽に足を運ぶことができる。また、反対に街中の方も気軽に越前海岸に足を運ぶことができきれいな越前海岸をトレッキングして健康体を維持することができる。 地域の足として根付かせるため、バス運賃を安く設定し差額を県や市の補助金で充当するよう検討してほしい。	B	いただいたご意見につきましては、今後の参考とします。
8	道路、橋、トンネル、水道管、ガス管、公共施設などの整備・敷設から数十年が経過し、いずれの公共インフラも老朽化し、更新の必要に迫られている。更新のためには莫大な費用がかかるため、これをどのようにするかはどの市町にとっても大きな問題である。市町間で連携して更新対象の優先順位をつけ、安全・安心な公共インフラの更新を着実に図ってほしい。	B	施設の更新は、設置自治体に意思決定の権限があるとともに、当該自治体のまちづくりにも影響を及ぼすため、更新にあたっては各市町の責任において優先順位を付けるべきと考えております。 一方で、いただいたご意見につきましては、課題として認識しており、施設更新や再編問題を圏域全体で捉えたファシリタマネジメント研修により資質向上を図るなど、公共施設のあり方を連携して研究していきます。
9	現有の職員の意識改革と戦略的、創造的政策形成能力と実行力を伴った人材育成はもちろんだが、一方で圏外特に県内外から産官学民を問わず(中央省庁や大学、民間企業などから)、有能な人材をUJターンなどで確保する仕組みづくりと働きかけをして、地方創生を真に動かす強力なエンジンとなる人材確保に尽力してほしい。	B	いただいたご意見を参考にして、各市町間で情報交換等を行うなど、都市圏からの人材誘致に連携して取り組みます。